

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 2019年2月5日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690500044		
法人名	株式会社メディカルケア		
事業所名	ケアホームあお		
所在地	富山県氷見市阿尾860-1		
自己評価作成日	2018年 11月25日	評価結果市町村受理日	2019年 2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者様との話しやすい関係に心掛け、笑顔で優しい介護を目標にしています。利用者様、職員とが和気あいあいに生活し、アットホームな環境となっています。医療面では看護師が配備され、週に一度の訪問看護に来てもらっています。毎週ケアカンファレンスを行い、ケアの向上を図り、チームで支援しています。

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	北証パトナ株式会社		
所在地	富山市荒町2番21号		
訪問調査日	2019年 1月21日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

利用者がその人らしく暮らすためのケア方法を学び合い、利用者に寄り添う、質の高い支援を目指している。地元や系列事業所の獅子舞を見物し、勇壮な雰囲気の中で、昔を懐かしんでもらうなど、暮らしの中に楽しみごとを取り入れるよう工夫している。また、運営推進会議では、民生委員や行政担当者から、水害対策や地区の文化祭などの情報を得、運営に活かしながら、地域と共に歩む体制を築いている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	

ケアホームあお

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送り時に理念の唱和をしています。ケアホームあおの事業所としての目標も掲げ、これも唱和し日常のケアに繋げる努力をしています。	理念を日々の支援に取り込むため、職員で話し合って事業所の目標を作り、理念とその目標を申し送り時に唱和している。職員は、その日の振り返りや、業務に入る際の心構えにつなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ゴミ出し、回覧板、地域の文化祭など、地域行事に参加しています。また納涼祭には近所の方々もお呼びしています。	自治会に加入し、ゴミ出し後の清掃など、地域住民としての関りを持っている。また、地域の文化祭に作品を出展し、その後のお茶会も楽しむなど、地域の人たちと交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座や、俳諧SOSネットワークにも参加しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、家族様、利用者様、役所の方々に参加していただき、定期的に運営推進会議を開催し、利用状況や現状の報告をし、会議で出た意見などをサービス向上に反映しています。	毎回の出席率が高く、民生委員や行政担当者からは、阿尾地区の空き家状況や水害対策などの報告があり、家族からは、利用に至るまでの経緯や心情が語られるなど、事業所からの報告のほかに、様々なことを話し合っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高齢者見守りSOSネットワークの協力団体になっています。市役所からの困難事例も受け入れを行っています。	市には、日頃から事業所の運営に関わることを相談している。また、運営推進会議の場でも、具体的に質問を投げかけ、地域密着型サービスとして協働できるよう働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のテーマで研修を行い、職員全員が拘束のないケアに取り組んでいます。玄関は20～7時までは施錠、その他は開錠しています。	身体拘束を行わないことを当たり前としてとらえ、日々のケアに当たっている。その中でも誤解が生じないように、定期的に研修会を行い、身体拘束の内容やそれに伴う弊害を改めて学び合い、抑圧感のない和気あいあいとした雰囲気をつくっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修にて虐待について学び、虐待のないケアで利用者様と接しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で権利擁護について学び、理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	看取りなどの重度化の利用者様には時間を掛けて説明をしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置をしています。家族様の面会時には笑顔で接し、ご意見などを伺っています。	運営推進会議には、交代で利用者や家族に出席してもらい、オープンな運営に努めている。会議での意見や、日頃の要望などを、行事の内容や支援のあり方などに活かしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者を通し、意見を聞く機会を作っています。	申し送り時やカンファレンスの際に、職員から色々な意見や提案をもらっている。また、管理者は日頃から、コミュニケーションを図るよう努め、職員が要望などを述べやすい雰囲気をつくっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	モニタリング等、職員各自に利用者様の担当者になってもらい役割を提供しています。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の社内研修、全体研修に参加しています。また外部研修にも参加し、これからのケアに繋がれるようにしています。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修に参加した時には、参加者と情報交換をしています。			
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	接する時間を多く取り、言葉に耳を傾けています。また家族様との会話から情報をもらい、それらの情報を職員間で共有して信頼関係の構築に努めています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の要望や思いを大切に受け止めるよう努力しています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様の要望や思いを大切に受け止めるよう努力しています。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活しているという姿勢を大切にしています。喜怒哀楽が出るようにお互いが家族のような関係作りをしています。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況などを伝え、コミュニケーションを日頃から大切にしています。家族様の思いに寄り添い、利用者様が穏やかに生活できるように家族様と共に暮らしを支えるようにしています。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうよう、支援に努めている	馴染みの人が来られた時も笑顔で接し、本人との付き合いが継続できるように支援しています。	共に高齢化する中で、知人等の訪問は少なくなっているが、訪問時には職員がサポートしている。また、獅子舞の見物など、昔を懐かしむ行事に参加できるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	誕生会などのイベント等に参加していただき、利用者様同士が交流できる場を作っています。簡単な作業などは職員と一緒に皆さんで行っています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、家族様の相談に応じるようにしています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中で本人の思いや意向を確認しケアプランに繋げています。本人の言葉で確認出来ない時は、家族様と話合い、必要な支援に努めています。	利用者にさり気なく寄り添いながら、本人とコミュニケーションを取ったり、利用者の表情の変化に留意するなど、様々な状況の中から本人の思いや意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様、家族様よりこれまでの生活や暮らしの情報を聞いたりして、ケアに必要な情報収集をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護支援記録、24時間シート、本人様・家族様との会話などから情報収集し、本人様に合った暮らしを考えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎週カンファレンスを行い、利用者様の变化、対応策等そこで出た意見等を職員全員で共有し、ケアプランにも繋げ日々のケアに繋げています。	毎週のカンファレンスで、利用者様の状態の変化や医師の所見、また、家族からの要望や職員のアイデアなどをもとに話し合い、どのような支援に変更していくか検討しながら、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、変化を介護支援記録に記入、職員間の連絡ノートにも記入し、申し送り時やカンファレンスで職員全員で情報共有してケアにつなげています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様の対応できない受診などには、職員で受診の支援をしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の文化祭に参加させていただき、利用者様の作品を展示させていただきました。お茶会にも参加し、交流を図っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様の受診時には近況の状況を伝えています。必要時には職員も同行し主治医に状況説明し、適切な医療が受けられるようにしています。週に一度、訪問看護に来てもらい意見、アドバイスを貰っています。	在宅時に築いた医師との信頼関係を継続してもらい、気になる症状の場合は、職員も診察に付き添っている。また、かかりつけ医にお願いし、利用者や家族が希望する訪問診療に応えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	週に一度、訪問看護のナースに来てもらい、異常の発見、気づきを伝える事で、意見やアドバイスを貰っています。			
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院時にはサマリを届けています。また訪問も行い利用者様の精神面で少しでも不安にならないように対応しています。退院時には退院カンファレンスに参加し主治医から今後のケアでの注意点などを聞き、職員全員で情報共有をしています。			
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	利用者様の状態の変化により、家族様に看取りの話をしています。本人、家族様、主治医、訪問看護、職員が連携し納得のいく終末期を送れるよう支援しています。	重度化や終末期について考える時期になれば、本人や家族の思いを聞き、看取りの希望があれば、医師、訪問看護師などの態勢を整え、家族の協力を得ながら、看取り支援につなげている。		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	AED、救急カートを設置しています。救命講習も受け、緊急時に備えています。			
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	火災訓練は二ヶ月に一度の自主避難訓練、消防署立会いで年に二度の訓練を行っています。風水害での訓練も行っており、災害に備えています。	開設以来、2か月ごとの火災想定避難訓練を継続している。水害については、避難先までの所要時間など、実際に避難を実施したことで得られた課題を、今後の災害対策に活かすこととしている。	風水害対策の強化を図り、避難訓練を実施したが、今後は、避難開始や避難経路の確認などを行って、火災以外の災害に備えることが期待される。	



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬意をはらい、丁寧な言葉遣い、接し方に心掛けています。またケア時はプライバシーを損なわないように配慮しています。	馴染みの関係を築く一方で、馴れ合いにならないよう、初心に戻り、事業所の目標に掲げている「同じ目線で思いやりの介護」の実践に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の要望に応え、自己決定しやすい様に声掛けしています。押し付ける声掛けはせず、本人様の希望が叶うように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室で休んだり、ホールで過ごしたりと一人ひとりが自由に暮らせるように支援しています。ゆったりとした時の流れを大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師に来てもらい、好みのカットをしてもらっています。着衣の乱れがある時などは声掛けし、正して貰っています。一人で出来ない時は支援しています。季節に応じた衣類など家族様に話をしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者様と同じテーブルで会話しながら食事をしています。また季節が感じられるお楽しみランチも定期的に提供しています。	星やハート型をあしらった人参入りのシチューなど、食欲をそそるよう、ひと手間かけた食事づくりに努め、職員と会話をしながら食事を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態により食事形態を変えています。食事量水分摂取量が少ない方には、状態に合わせて対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方には口腔ケアを声掛けし行って貰っています。出来ない方には歯ブラシ、口腔スポンジなど必要に応じて使い分けて支援しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表をもとに一人ひとりの排泄パターンに合ったトイレ誘導をしています。出来るだけトイレでの排泄を心掛けるようにしています。	排泄チェック表や本人の仕草などに留意し、トイレでの排泄につなげている。また、利用者の戸惑いを軽減するよう、職員間で支援内容を統一している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便状態を申し送り時に伝え、職員各自が把握できるようにしています。ヨーグルト、牛乳、塩麹などの乳製品や発酵食品の摂取をしてもらっています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	希望を聞き好きなタイミングで入浴してもらっています。入浴中は会話をして喜んで貰えるように入浴の支援をしています。脱衣場にはエアコンで温度調整し、ヒートショックにも対応しています。	入浴前後には、水分をとってもらい、エコキュート仕様で柔らかくなった湯に、ゆったりとした気分で入浴してもらい、職員と会話を弾ませている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は利用者様の生活習慣に合わせて好きな所で休んで貰っています。椅子でウトウトされてる方には声掛けし、楽な体勢で休んでもらいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自がどのような薬を服用しているのか薬事で確認をしています。受診で処方された薬は連絡ノートに記入して職員全員で情報共有しています。服薬時は誤薬のないように十分に確認をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの得意な事を見つけ、洗濯物たたみ、食事の下ごしらえ等のお手伝いをしてもらっています。終わった時には感謝の言葉を忘れずに伝えています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見、ドライブ等企画を立てて外出の機会を作るようにしています。遠出が難しい時は駐車場に出て日向ぼっこ、メダカのエサやりなどに出て、外に出るようにしています。	玄関に出て、プランターのお花やメダカのお世話をしている。また、系列の事業所の獅子舞見物や、朝日山や湊川沿いの桜を見に出かけるなど、外出の機会をつくるよう努めている。	外出することで利用者の笑顔を引き出しているが、状態の変化などによって、その機会が減ってきている。今後は、買い物や楽しみごとの外出の機会を増やすことが期待される。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は職員が預かり、事務所で管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様からの電話の取次ぎも自由に行っています。また年賀状を書く支援もしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節により玄関の飾りつけをしています。床暖やジアイーノを設けており快適に過ごせるようになっています。	玄関やリビングには、正月飾りやおひな様など、季節ごとの装飾品を飾り、ソファや畳の間で、ごろんと横になってテレビを見るなど、我が家で寛ぐような家庭的な雰囲気をつくっている。また、ウイルスを駆除する空気清浄機などを置き、快適な住環境づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳スペース、ソファは希望に合わせて自由に利用してもらっています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族様の写真を飾ったり、自宅からテーブル等を持参してもらい本人様の安らげる場所になるよう工夫しています。	お人形などの置物や、小型の畳などをもち込んでもらい、利用者が過ごしやすい居室づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり、センサー対応の足元灯の設置で利用者様が夜間のトイレ時に転倒がないように、安全に配慮されています。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 ケアホームあお  
作成日 平成 31年 2月 15日

【目標達成計画】

優先順	項目番	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	風水害対策の強化を図り、避難訓練を実施したが、今後は、避難開始や避難経路の確認を行って、火災以外の災害に備えることが期待される。	避難場所までのマップ作成。	避難経路を実際に通り、危険な個所などを明記し、わかりやすいマップを作成して掲示する。	1年
2	49	外出することで利用者の笑顔を引き出しているが、状態の変化などによって、その機会が減ってきている。今後は、買い物や楽しみごとの外出の機会を増やす事が期待される。	外出の機会を増やす。	花見や買い物など、外出する機会を多く作る。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。